

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700303		
法人名	株式会社ウェルフェアクリエーション		
事業所名	ソレアード鴻巣		
所在地	埼玉県鴻巣市上谷141-1		
自己評価作成日	平成22年11月9日	評価結果市町村受理日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様のこれまでの生活を大切に、ご希望に添って生活できるように心がけています。スタッフ全員が、ご利用者様と共感し、安心して過ごせるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成22年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所理念や年度行動目標が職員に徹底され、利用者本位で明るく、暖かく、安らぎのあるケアサービスの提供が行なわれている。納涼祭やクリスマス会など事業所催事では従来の職員先導方式を替え、利用者優先で司会進行も利用者が進め、カラオケやフラダンス、寸劇などの練習に励み、家族や地域の皆さんと共に会を盛り上げ、行動目標の愛と感動と感謝の溢れる時間を共有されている。
 ・全社的な研修システムが確立し、ケアサービスに活かされている。各事業所から選出された職員によるプロジェクトチームで各種研修内容の検討を行ない、事業所にフィードバックされ、職員のスキルアップのための全社的な取り組みが継続的に行われている。
 ・H21年度の目標達成計画(災害対策の強化)について、食料・医薬品の備蓄、介護度の高い利用者の避難搬送方法及び夜間発生を想定した訓練や救急救命講習会の実施など、職員全員での取り組みが行なわれ目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、毎朝の朝礼で唱和して確認し合い実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念がつけられ、管理者と職員は朝礼や定例会議などで理念を共有し、利用者本位で明るく、暖かく、安らぎのあるケアの取り組みが行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	ホームの行事に地域の人たちを招待したり、自治会に加入し地域のお祭り等の行事に参加している。またPTAの資源ごみの回収に協力している	納涼祭やクリスマスなどの事業所催事、その他ボランティアの活動時にも地域の方々をお招きし、利用者と共に楽しんでいる。また、自治会活動への参加やPTAの資源ごみ回収にも協力するなど積極的に地域交流を図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時などに声掛けを行うなどし、理解を広めるよう努力している。徐々に理解も広まっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員、自治会長、ご利用者やご家族のほか、近隣の住民の方々にも開催日の案内を配り意見を交換している	定期的に開催され、利用者の災害時対策や夜間訓練時の近隣への声かけなど実体に即した意見交換をされている。又、特別参加者として市から指名されている地域コーディネーターも参加する等、意欲的に取り組み、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の中で生活保護者も多いので、頻回に役所に行き相談しながらサービスに取り組んでいる。運営推進委員会において市から派遣されている包括支援センターの職員に伝えている	介護保険課や福祉課担当者との報告・連絡・相談時、その他市主催の介護サービス事業所管理者会議などの機会にコミュニケーションを図り、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に取り組んでいる	会社全体でのリーダー研修や事業所の全体会議で身体拘束に関する理解を深める勉強会が行われ、身体拘束をしないケアの取り組みが行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修会にて学ぶ機会を持ち、それを全職員で共有し活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明者の氏名を明言し責任を持って説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様は日々意見を表現している。ご家族は面会時や行事の後の家族会で意見や要望を出してもらい、職員間で話し合っている	利用者については日頃の関わりの中で、家族とは運営推進会議や面会・家族会などの機会に意見・要望を聴き取られている。利用者・家族アンケートも実施され、事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やリーダー会議等で機会を設けている	全社的な取り組みのリーダー研修時、事業所での全体会議や職員個別での機会も設けられ、利用者の希望に沿ったイベント企画案など具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心をもって働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の状況を把握し、研修の機会を設け実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の実施の際、相互訪問の計画をし、活動をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意向やご本人の希望を聞き、カンファレンスを開きサービス内容を考えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や希望を聞き、サービス内容を考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや介護職員、看護師などなるべく多くのスタッフと話し合いサービス内容を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活のすべてをご入居者様と過ごし戦争の体験などにも共感している。昔のしきたり等も教えてもらったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの暮らしを踏まえて、本人が施設で楽しく暮らしていけるよう家族と話し合っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人が来所しやすいように、別室を設けて面会してもらったり、湯茶を出したりしている	自宅のご近所の方や職場同僚、その他同好会のお仲間などが来所されたり、家族の協力を得てのお墓参りや馴染みの店での買い物など関係継続への支援が行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分の力が発揮できるような機会を作ったり、利用者様に話を伺うなどしている。フロア全体が仲間であるという意識はできていると思われる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今までのつながりを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の尊厳を守り、プライバシーを守るケアをしている	意思疎通の困難な利用者については、言葉や表情から思いや意向を汲み取るよう努めている。利用者の気持の変化を捉え、散歩や買い物など個別に支援をし、おだやかに暮らしていただくようケアの取り組みが行なわれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を尊重するケアに努力している。 (昔、縫い物が好きだった人には縫い物をやっていたなど)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを週1回看護師も交えて開催している。開催日に面会に来た家族には参加してもらっている	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意向を聴きとり、看護師を含む関係する職員全員でカンファレンスを行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を随時記入し、申し送りを徹底し報告している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援を行っている。また、個別に買い物にいくなどの支援も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな生活ができる様地域資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の相談に応じて希望する医療機関を受診している	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りにて入居者様の様子を知らせ、異変があった場合もすぐに知らせようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された時は、病院と連絡を密にとり適切な入院生活が送れるようはたらきかけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期においてはご本人やご家族様と看護師やスタッフを交え方針を随時確認している	入居時に重度化や終末期に関して、家族から共同生活終末期契約書の同意書をいただき、早い段階から出来る限りの支援体制を整えている。リーダー会議で定期的に看取りについての研修も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急時の訓練を全員が受けており、把握している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署による避難訓練を実施しており、避難経路や避難場所も職員間で周知している	全社的な取り組みとして、毎月定例での防火管理者会議が行われ、事業所としても年2回の避難訓練を実施し、夜間の発生を想定しての訓練も行なっている。又、地域住民の方々と合同訓練も実施され協力者も確保されている。	災害発生は予測不可能なことと職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地域住民の協力者からの支援は必要不可欠なものであり、連絡網の整備とその通報訓練の実施を行ない、更なる協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にてご利用者様の尊厳を尊重した言葉やプライバシーを損ねない言葉かけを徹底している	リーダー研修でロールプレイングを通じて、利用者が自己決定しやすい言葉かけ等の研修をされている。又、各事業所から1名選出によるプロジェクトチームが構成され、尊厳に関する研修内容の検討を行ない、事業所にフィードバックされ運営に活かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の自己決定を尊重し、それを職員が支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のスピードにあわせ業務を進めている。起床、食事、就寝時間などは各ご利用者様に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご利用者様と一緒に衣類を選んだり、好みの髪型になるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の希望や能力に合わせて食事の準備や後片付けを職員と一緒に、食事と共に楽しんでいる	利用者個々の力に合わせて、食事の準備・後片付けなど職員と共に行っている。自家菜園で収穫された野菜も天ぷらやじゃがバターなどで楽しむほか、手打ちうどんにも職員と共に挑戦されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量は記録し、1日の総摂取量を把握している。献立実施表に基づき、栄養が偏らないよう配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを推奨し支援している。入れ歯の方は夕食後にポリデント消毒している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排泄チェックをつけ、パターンを把握して支援を行えるようにしている	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中に牛乳を摂取、食事にもなるべく野菜を多く取り入れるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望にあわせてくつろいで入浴できるよう、また最低でも週2回入浴できるよう支援している	入浴日と時間は設定されているが、できる範囲で利用者の希望に沿い、好きな時間に入浴できるよう取り組みが行われている。また、併設サービスの檜風呂や機械浴も活用し入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりと生活できるような環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の用法や用量を表にして理解しており、体温表にて症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の希望を聞きながら、散歩や日光浴をしてもらったり、食器洗いや洗濯、洗濯たたみやごみ出し等の役割を持って張り合いのある生活を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、希望により買い物やドライブに出かけている	近隣への散歩のほか、一人ひとりの希望に沿い買い物や地域の公園へ出かけ、四季折々の花々を楽しまれている。また、一部の利用者はサービス利用者と一緒に日帰り旅行に参加し楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、事務所内の電話を利用させていただいている。家族からの電話も取り次ぐ旨を伝えてある。手紙も書いていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファがあり、ご利用者様が読書などできるようになっている。台所もオープンで使いやすい。玄関から共用空間等に季節の花が飾られ、居心地よく過ごせるように工夫している	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温・音などきめ細かな配慮がとられている。また、ぬり絵や書道・お花など季節感のある飾付と明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーがあり、ご利用者同士で談話できるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、じゅうたん、たんす、椅子やテーブル等、好みのものを持ち込み、落ち着いて過ごせるように工夫している	思い出の写真や好みの書籍その他、馴染みのタンスや寝具などが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、危険物は置いておらずご利用者様が活動しやすい空間となっている		

(別紙4(2))

事業所名 ソレアード鴻巣

目標達成計画

作成日: 平成 23年 2月 4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域の協力体制が具体的に構築されていない。	地域の協力体制の構築	1月22日の運営推進委員会においてこの件について話し合い(自治会長様、防災委員、民生委員の方々)、どのような協力体制が自治会として可能か具体的に役員会及び総会で取りあげていただくこととなった。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。